

佐渡米通信

こめへる

2019年 06月号

発行日:2019年6月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部米穀販売課 山田・藤巻
Jasadoeinoubu20@dune.one.ne.jp

目指せ、1等米比率90%

6月3日から7日までの5日間、島内100カ所の圃場で中干し指導会が行われました。JAの指導員からは「今年は好天に恵まれているため、茎数が増えすぎてしまう可能性があるため、早めの中干しに努めましょう。水の確保が難しい圃場では、中干しはしなくても溝切りは必ず実施してください」と説明がありました。資料に沿った中干し指導が行われた後には、質疑応答が行われ、カメムシを発生させないような草刈りの時期や稲が病気になるってしまった時の対処法など、農薬を少しでも減らせるような管理の“コツ”等について、質問が飛び交いました。



大野亀がオレンジ色に彩られました

現在、佐渡の最北端にある亀の形をした大きな一枚岩「大野亀」では、カンゾウの花が一面に咲き誇っています。先日の6月8・9日の両日には、「カンゾウ祭り」が開催され、伝統芸能の鬼太鼓や民謡の披露、海産物の屋台などが出て、観光客らを楽しませました。最も見頃を迎えた当日は、50万株100万本のトビシマカンゾウが満開で、訪れた大勢の観光客はライトアップされた様子も見られて皆満足していました。



どんな生きものがいるのかな

佐渡では6月第2日曜日と8月の第1日曜日を「佐渡市生きもの調査の日」としています。今年も、6月9日その日にあたり、各地で朱鷺と暮らす郷土の生産者らによる田んぼの生きもの調査が行われました。中には、集落毎のグループやお孫さんと一緒に調査をする生産者もいて、後日佐渡市に提出する「生きもの調査野帳」に記録しながら、年々田んぼの生きもの種類や数が増えていることを実感していました。



田んぼの中では、オタマジャクシやアマガエル、ドジョウなどが見つかりました

田んぼアートが浮かび上がってきました

5月11日に田植えが行われた田んぼアートの絵柄が、徐々に浮かび上がってきました。昨年よりも図柄と図柄の隙間が狭くなったことで田植えの難易度が上がりましたが、参加者が丁寧に植えてくれたので絵柄や文字が崩れることなく、綺麗に浮かび上がっています。見頃は、7月中旬頃で更に朱鷺の羽ばたく姿が浮かび上がり、訪れた人が満足してくれるものと期待しています。「令和」の文字もきれいに浮かび上がっています…。

【田んぼアートの色の秘密】

品種によって葉の色が違います。

- コシヒカリ
- ゆきあそび…観賞用水稻品種
- 黄色大黒…観賞用の古代米
- 紫大黒…観賞用の古代米
- あかねあそび…観賞用水稻品種
- べにあそび…観賞用水稻品種



6月12日現在の田んぼアートの様子

